

平成 29 年 1 2 月 9 日

岡田 誠治

古代史へのいざない—天皇の諡（おくり名・諡号）から古代史の背景をさぐる

日本書紀 卷第三

「(見出し) 神日本磐余彦天皇・かむやまといわれびこのすめらみこと

(本文・書き出し) 『神日本磐余彦天皇、諱(ただのみな) は 彦火火出見(ひこほほでみ)。』

(同・元年の条) 『・・・始馭天下之天皇(はつくにしらすすめらみこと)を、号(なず)けたてまつりて
神日本磐余彦火火出見天皇と日す」

【1】諡・諡号

◎ 諡・・・し、おくり名・贈り名

◎ 諡号(しごう)・・・帝王・相国などの貴人の死後に奉る名前 生前の事績への評価に基づく名前

【天皇の諡号】

天皇の名前には「諱・いみな(実名)」の他に「諡号」、「追号」、「尊称・美称」などがある

◎ 天皇の諡号には和風諡号と漢風諡号の2種類がある

⇒ 現在は全ての天皇を漢風諡号または追号をもって「〇〇天皇」と呼んでいるが、明治3年以前は
第63代冷泉天皇～118代後桃園天皇までは「〇〇院」と呼んでいた

1. 和風諡号・・・日本独特のもの 国風諡号・本朝様諡ともいう

・和風諡号は殯宮儀礼の一部として群臣より奉られる

・持統天皇(漢風諡号) — 大倭根子天之広野日女尊天皇おおやまとねこあめのひろのひめみこと

(諡号献呈儀礼の記録)

— 「続日本紀：大宝2年12月22日死去・同3年12月17日 諡され 同日火葬・・・」

○ 初代神武天皇から40代天武天皇までの名を慣例的に和風諡号とよんでいる

⇒ 和風諡号は葬送儀礼の変化、王権のあり方などにより消滅していく

第53代淳和天皇が最後—日本根子天高讓弥遠尊天皇やまとねこあめたかゆずるいやとおのみこと

2. 漢風諡号・・・奈良時代から平安時代にかけて和風諡号と併用された

中国と同様に生前の行いを評して「逸邇書・諡法解」などの定義によって選定された

次帝が奉る、諡を撰して奏上するのは明経博士、大外記などの儒家

○ 日本の天皇諡号は天平宝宇6～8年(762～764年)に淡海三船(天智天皇の曾孫)により、弘文天皇、文武天皇を除く神武天皇から元明・元正天皇までの諡号が一括撰進された(釈日本紀)

3. 追号

和風諡号、漢風諡号が奉られなくなって後、顕彰・賛美を含まず御在所・御陵地などを号としてその先帝を呼んだ通称

(追号の分類) ・地名 ・宮、邸宅名等 ・山陵号 ・加後号

・院号—院(邸宅、寺院)に関係した経緯から称された上皇(太上天皇)の尊称

→さらに在位中に崩御した天皇に対しても追号として院号を奉る

4. 遺諡・・・日本独自のあり方

諡号・追号を自ら遺詔（勅）によって決めること ⇒ 議定をすることもなく本人の意思が尊重される

(例) ・第96代 後醍醐天皇 ・第108代 後水尾天皇

【2】天皇の名前から歴史を探る

1. 「欠史八代」説・・・第2代綏靖天皇～第9代開化天皇は架空の天皇であるという説

・和風諡号から考える8代の天皇の存在、不在 → 後代の一括創作説(?)

2. 王朝交代説

(1) 和風諡号に入っている「いり」「たらし」「わけ」は其々数代の連続が見られるが、前代名との断裂には王朝の交代があった

(2) 王朝交代説

①騎馬民族征服王朝説—江上波夫 ②三王朝交代説—水野祐 ③河内王朝説—直木孝次郎

④継体王朝説 ⑤その他

3. 「神」字諡号の意味するものは?

・古代天皇のなかで実在した天皇?

・新王朝の創始者につけられた?

・2人の初代天皇⇒はつくにしらすすめらみこと・神武天皇(始馭天下之天皇)、崇神天皇(御肇国天皇)

4. 古代中国王朝史書に記載される「倭五王」は誰か?

・「倭王 — 讚、珍、濟、興、武」 → 1字名の倭王は日本の天皇に該当するのか

5. 継体天皇—「継体」の名のしめすもの

・応神天皇から継体天皇に続く系譜が「日本書紀」には欠落しているのは血統の断絶を暗示している

・「嗣」ではなく「継」を使用した意味は?

・「継体」は固有名詞ではなく、普通名詞である

6. 崇徳天皇にみる「崇」「徳」、後鳥羽天皇にみる「徳」の意味するもの

・「徳」諡号の天皇は不幸な最期を送った天皇に奉られた?

7. 「光」は重要な意味を持つ

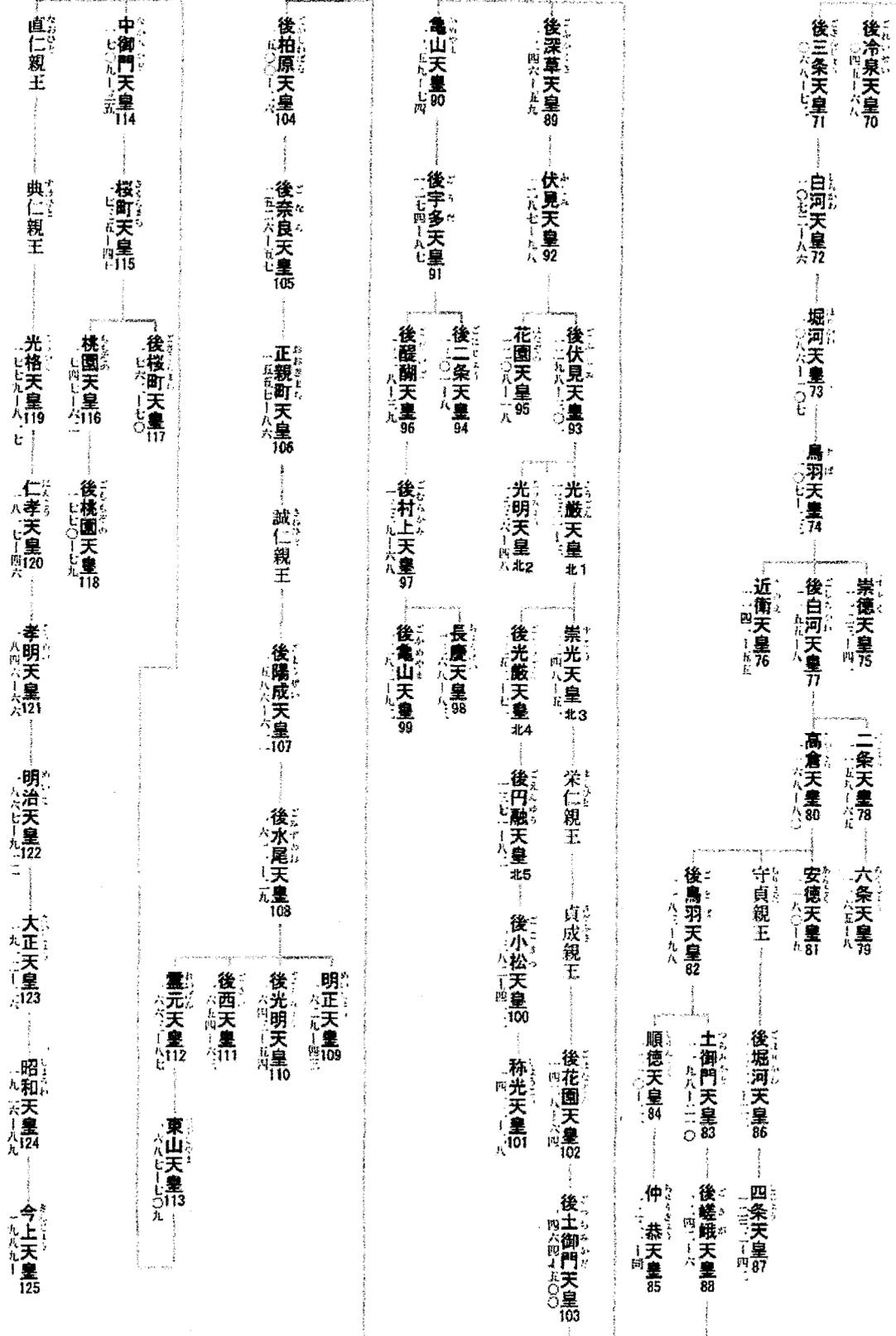
・神皇正統記に記載された「傍流より嫡流になった」3代、とされる「継体、光仁、光孝」(継体は前述)

・「光」は傍流が皇位を継ぎ、新時代を築いた天皇に贈られ?!

8. その他

—参考文献—

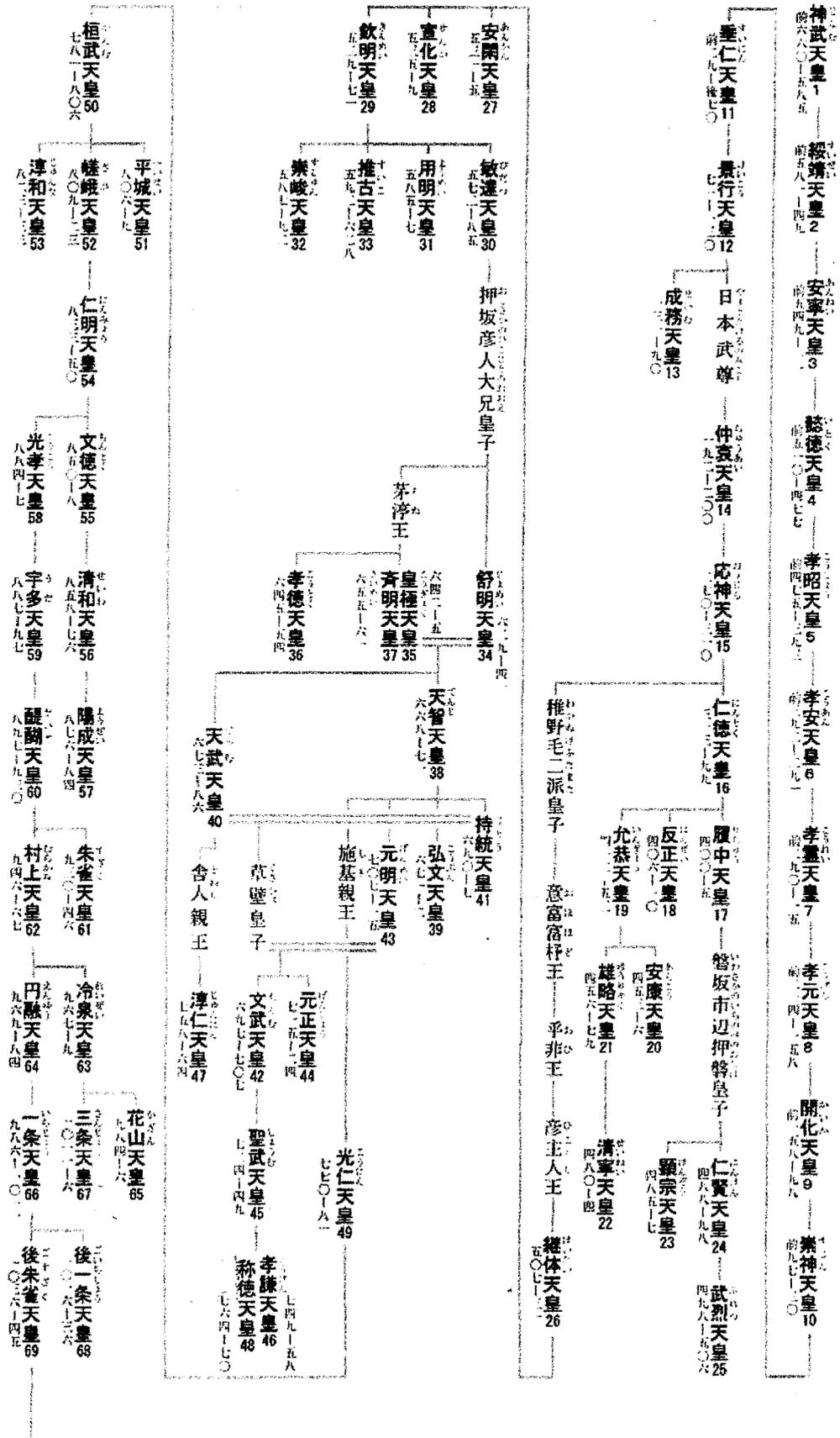
- ・「古事記」倉野憲司校注岩波文庫 ・「古事記」梅原猛学研M文庫
- ・「日本書紀」坂本太郎・水野祐他校注岩波文庫 ・「日本書紀・全現代訳」宇治谷孟講談社学術文庫
- ・「続日本紀・全現代語訳」宇治谷孟講談社学術文庫
- ・「大和王権と河内王権」直木孝次郎吉川弘文館 ・「日本神話と古代国家」直木孝次郎講談社学術文庫
- ・「持統天皇」直木孝次郎吉川弘文館 ・
- ・「古墳と古代文化99の謎」森浩一サンポウブックス
- ・「帰化人」上田正昭中央公論者
- ・「古代天皇のすべて」前之園亮一編、武光誠新人物往来社
- ・「日本古代史研究整理」山田武雄千秋社
- ・「盗まれた神話」古田武彦朝日文庫 ・「日本列島の大王たち」古田武彦朝日文庫
- ・「倭人と韓人」上垣外憲一講談社学術文庫
- ・「葛城と古代国家」門脇貞二講談社学術文庫
- ・「倭国の時代」岡田英弘筑摩書房
- ・「大和王朝終焉の秘密」水野祐KKKベストセラーズ
- ・「大系日本の歴史③ 古代国家の歩み」吉田孝編小学館ライブラリー
- ・「清張通史2空白の世紀」松本清張講談社
- ・「激論！古代史（対談鈴木武樹：対江上波夫、対水野祐）」成甲書房
- ・「百済から渡来した応神天皇」石渡信一郎三一書房
- ・「大和朝廷と天皇家」武光誠平凡社新書
- ・「崇神天皇とヤマトタケル」神一行学研M文庫 ・「古代日本の謎」神一行学研M文庫
- ・「謎解き古代飛鳥の真相」中村修他学研M文庫
- ・「天皇誕生」遠山美都男中央公論新社
- ・「天孫降臨の夢」大山誠一NHKブックス ・「古代史の真相」黒岩重吾PHP文庫
- ・「逆説の日本史（2）古代怨霊編」井沢元彦小学館文庫
- ・「日本古代史の論争51」歴史読本編集部
- ・「古代天皇の秘密」高木彬光角川文庫
- ・「謎の大王継体天皇」水谷千秋文春文庫 ・「継体天皇の謎」関裕二PHP文庫
- ・「謎解き『日本』誕生」高森明勅ちくま新書 ・「倭国の謎」細見英咲講談社
- ・「古代倭王の正体」小林恵子祥伝社文庫
- ・「妖怪と怨霊の日本史」田中聡集英社新書
- ・その他



【 資料 2 】

歴代天皇 和風諡号一覧

代	漢風	和風・紀	和風・記	よみ
1	神武	神日本磐余彦	神倭伊波禮毘古	カムヤマトイワレビコ
2	綏靖	神淳川耳	神沼河耳	カムヌナカワミミ
3	安寧	磯城津彦玉手看	師木津日子玉手見	シキツヒコタマテミ
4	懿德	大日本彦耜友	大倭日子鉏友	オオヤマトヒコスキトモ
5	孝昭	觀松彦香殖稻	御真津日子訶惠志泥	ミマツヒコカエシネ
6	孝安	日本足彦国押人	大倭帯日子国押人	ヤマトタラシヒコクニオシヒト
7	孝靈	大日本根子彦太瓊	大倭根子賦斗邇	オオヤマトネコヒコフトニ
8	孝元	大日本根子彦国牽	大倭根子日子国玖琉	オオヤマトネコヒコクニクル
9	開化	稚日本根子彦大日日	若倭根子大毘毘	ワカヤマトネコヒコオオヒヒ
10	崇神	御間城入彦五十瓊殖	御真木入日子印惠	ミマキイリヒコイニエ
11	垂仁	活目入彦五十狭茅	伊久米伊理毘子伊佐知	イクメイリヒコイサチ
12	景行	大足彦忍代別	大帯日子淤斯呂和氣	オオタラシヒコオシロワケ
13	成務	稚足彦	若帯日子	ワカタラシヒコ
14	仲哀	足仲彦	帯中日子	タラシナカツヒコ
15	応神	誉田別	品陀和氣	ホムダワケ
16	仁德	大鷦鷯	大雀	オオサザキ
17	履中	去来徳別	伊邪本和氣	(オオエノ) イザホワケ
18	反正	瑞齒別	水齒和氣	(タジヒノ) ミズハワケ
19	允恭	雄朝津間稚子宿禰	男浅津間若子宿禰	オアサズマワクゴノスクネ
20	安康	穴穂	穴穂	アナホ
21	雄略	大泊瀬幼武	大長谷若建	オオハツセノワカタケ
22	清寧	白髮武広国押稚日本根子	白髮大倭根子	シラカノタケヒロクニオシワカヤマトネコ
23	顕宗	弘計	袁祁	ヲケ
24	仁賢	億計	意祁	オケ
25	武烈	小泊瀬稚鷦鷯	小長谷若雀	オハツセノワカサザキ
26	繼体	男大迹	袁本杼	オオト
27	安閑	広国押武金日	広国押建金日	ヒロクニオシタケカナヒ
28	宣化	武小広国押盾	建小広国押楯	タケオヒロクニオシタケ
29	欽明	天国排開広庭	天国押波流岐広庭	アメクニオシハルキヒロニワ
30	敏達	淳中倉太珠敷	沼名倉太玉敷	ヌナクラフトタマシキ
31	用明	橘豊日	橘豊日	タチバナノトヨヒ
32	崇峻	泊瀬部	長谷部若雀	ハツセベノワカサザキ
33	推古	豊御食炊屋姫	豊御食炊屋比売	トヨミカシギヤヒメ
34	舒明	息長足日広額	(※ 古事記記載終了)	オキナガタラシヒヒロヌカ
35	皇極	天豊財重日足姫		アメトヨタカライカシヒタラシヒメ
36	孝徳	天万豊日		アメヨロズトヨヒ
37	斉明	(天豊財重日足姫)		(アメトヨタカライカシヒタラシヒメ)
38	天智	天命開別		アメミコトヒラカスワケ
39	弘文	(大友)		ヒ
40	天武	天淳中原瀛真人		アマノヌナハラオキノマヅト
41	持統	高天原広野姫	大倭根子天之広野日女・統紀	オオヤマトネコアメノヒロノヒメ
42	文武	天之真宗豊祖父	倭根子豊祖父・統紀	ヤマトネコトヨオオジ
43	元明	日本根子天津御代豊国成姫		ヤマトネコアマツミシロトヨクニナリヒメ
44	元正	日本根子高瑞浄足姫		ヤマトネコタカミズキヨタラシヒメ
45	聖武	天璽国押開豊桜彦	勝宝感神聖武皇帝	アメシルシクニオシハラキトヨサクラヒコ
46	孝謙	倭根子・高野姫	宝宇称徳孝謙皇帝	ヤマトネコ・タカノヒメ
47	淳仁	(大炊王)		淡路麿帝
48	称徳	倭根子・高野姫	宝宇称徳孝謙皇帝	孝謙重祚・ヤマトネコ
49	光仁	天宗高紹		アマムネタカツグ
50	桓武	日本根子皇統弥照		ヤマトネコアマツミスルマイヤテル
51	平城	日本根子天押国高彦		ヤマトネコアメオシクニタカヒコ
53	淳和	日本根子天高讓弥遠		ヤマトネコアメタカユズルイヤトオ



【資料 4】 主な「王朝交替説」の諸説

I 騎馬民族征服王朝説（江上波夫）

- (1) 騎馬民族の性格を有する扶余族が任那から北九州に渡来し、後に大和に進出した
- 第一段 == 4世紀前半 崇神天皇 ○ 第二段 == 4世紀後半か5世紀はじめ 応神天皇
- (2) 『古事記』にいう「崇神天皇」→「所知初国之御真木天皇・はつくにしらすみまきのすめらみこと」は「ミマの宮城（木は城）から入ってきた王」。ミマは任那。（『紀』—御間城入彦五十瓊殖天皇御肇国天皇）

II 三王朝交代説（水野祐）・ネオ騎馬民族説

- (1) 古王朝（崇神王朝・呪教王朝）・神武天皇は第10代の崇神天皇を反映させる形でつくられた架空の初代天皇であり、第2代の綏靖天皇から第9代の開化天皇までは存在しない
- ・崇神天皇の和風諡号「ミマキイリヒコイニエ」、垂仁天皇の和風諡号「イクメイリヒコイサチ」の他にも「イリヒコ」「イリヒメ」の名がつく者が集中しており、前後の天皇名の流れと明らかに異なる
- (2) 中王朝8代（仁徳王朝・征服王朝）
- ・南九州に在った狗奴王国が応神の時に北の女王国（邪馬台国）を滅ぼす
 - ・次代の仁徳が大阪平野（河内）に東遷し、ここに本拠をおいた
 - ・仁徳王朝の諸天皇が倭の五王にあたる
- (3) 新王朝（継体王朝・統一王朝）・〔継体以下現在の天皇（宣化を除く）〕
- ・中王朝が内部崩壊、近江や越前に勢力をもった継体が前王朝を滅ぼし、新たな王朝をつくった

III 河内王朝説

○ 応神（ホンダワケ）の出生の神秘性、前代との名前構造の異なり、宮・陵の所在がヤマトではなく河内・和泉

(1) 井上光貞の説

- ・ 応神が前の王朝を倒し入り婿する形で前王朝を継いで大和も支配者になった

(2) 直木孝次郎の説

- ・ 応神は「イリ」、「タラシ」に続く「ワケ」の王家の祖。誕生譚は始祖王にふさわしい
- ・ 難波は国の創始に関わる特別の聖地と考える → 応神天皇を王朝の創始者とみる

(3) 上田正昭の説

三輪祭祀の権利を掌握した崇神から数代続いた「三輪王朝（イリ王朝）」に入れ替わり、応神を始祖とする「ワケ」の名をもつ王家が「河内王朝（ワケ王朝）」を開いた

【資料 5】 「倭の五王」名前の比定

(1) 文字・音比定の例

- ① 讚——a 去来穂別（イザホワケ履中）の第2音「サ」を「讚」と表記

b 仁徳説・大鸕鷀（オオサザキ仁徳）の第3、4音「サ」または「ササ」を中国側が

- ② 珍——瑞齒別（ミズハワケ反正）の第1字「瑞」を中国側が「珍」とまちがえて表記

- ③ 濟——a 雄朝津間稚子（オアサツマワケゴ允恭）の第3字「津」を「濟」と //

b 允恭の第3、4音の「ツマ」は「妻」であり、この音「サイ」が「濟」と記された

- ④ 興——a 穴穂（アナホ安康）が間違えられて「興」と記せられた

b 「穂」を「興」（ホン）と誤った

- ⑤ 武——大泊瀬幼武（オオハツセワカタケ雄略）の第5字「武」をとった

- (2) 上記文字比定の基準はすべて「日本書紀」の文字表記→「獲加多支鹵大王」1音1文字表記

【 資料 8 】 明治維新時の崇徳天皇への宣命

1866年12月	孝明天皇没
1868年1月	鳥羽伏見の戦 王政復古の号令
3月	江戸城無血開城 五ヶ条の御誓文公布
4月	十五代將軍徳川慶喜水戸へ退去
5月	奥羽列藩同盟成立 彰義隊、上野で官軍と交戦
7月	江戸を東京と改称
8月26日	明治天皇、崇徳天皇陵へ勅使派遣
27日	明治天皇即位の礼を行なう
9月	明治と改元 会津藩降伏

明治天皇の御言葉を讀駁の白峰に眠っておられる崇徳天皇にお伝え致します。(陛下が)保元の乱によって海の彼方のこの讀駁に遷されたこの地で壽儀のうちに、お亡くなりになったことは、何たる悲劇でありましょう。このことは悲しみの極であり、陛下の靈に京へお帰りいただき、その壽儀をお慰めするべきだと、先代の孝明帝もお考えになっておられました。そのことを果たすことなくお亡くなりになりました。そこで先帝の遺志を継ぎ、陛下の靈をお慰めしようと都の近くに清らかな新宮(神社)を建立致しました。どうか、われらの志をお受けになり、長年の怒りをお鎮めになつて、京へお帰り下さい。そして、天皇と朝廷を永くお守り下さつて、この頃官軍に刃向かう陸奥出羽の賊徒(奥羽列藩同盟のこと)をすみやかに鎮定し、天下が安穩になりますようお助け下さい。

以上、おそれながら申し上げます。

(宣命体の原文を筆者が言訳)

明治天皇が勅使の大納言源通宣に命じて、崇徳天皇陵の前で読み上げさせた宣命(ふことりのり)は、次のようなものである。

【 資料 9 】 「光」字天皇

1. 「光」は重要な意味をもつ? 【中国で初めて「光」が使われたのは、漢王朝の復活者、後漢の光武帝】

- ①49代-光仁 ②58代-光孝 ③119代-光格

⇒ ◎「光」は傍流が皇位を継ぎ、新時代を築いた天皇におくられた!?

① 光仁

40代天武～48代称徳(41代持統、43代元明は天智の娘)はいわゆる天武朝の系譜だが、女帝称徳で後嗣が絶える。そこで即位したのは天智系の光仁である。和風諡号(群臣が奉る)は「太宗高紹天皇・あまむねたかつぎすめらみこと」「紹」は諡法解によれば「疎遠継位日紹」⇒疎遠者が位を継いだ漢風諡号(次帝が奉る)「光」は「能紹前業日光」⇒前業を継ぎ皇統を復活させた

② 光孝(小松)

54代仁明～57代陽成までは仁明の系譜。58代光孝は文徳の弟、以下光孝の系譜が皇統を継ぐ59代宇多は傍流の父光孝の即位経緯、自身の即位経緯並びに即位直後の阿衡事件を経て自らの皇統を正当化し、また権威を高めようとし、父帝に対し「光孝」の諡号を奉った

③ 光格

113代東山～118代後桃園までは東山の系譜。後桃園の急逝により傍系の閑院宮家から9歳で即位崩御後「光格天皇」の称号⇒63代「冷泉院」以来57代約900年ぶりの「天皇」号復活

※ 上記以外では 北朝1代光厳、同2代光明、同3代崇光、同4代後光厳、後光厳の曾孫第101代称光、110代後光明(江戸時代)

